『第 67 回日本生殖医学会学術講演会』が 11 月 3 日～4 日に横浜で開催され、院長、培養士 1 名、看護師 1 名が参加しました。

直近 2 年はコロナ禍でオンデマンドやハイブリッド開催と呼ばれる Web での開催が主流だったので、今回は久しぶりに現地開催ならではの雰囲気を味わうことができてとても良かったです。

着床前診断(PGT)の発表が人気で、立ち見が出るほどでした。

当院でも今年度から PGT-A,PGT-SR の検査受託を開始しております。

今回学会で得た最新の知見を生かして患者様に還元していきます。

当院からは 1 演題口演発表致しました。

『抗酸化剤添加培養液を用いた培養成績の比較検討』

胚の発生に悪影響を与える因子のひとつとして、酸化ストレスがあります。今回、3 種の抗酸化剤(アセチル-L-カルニチン、N-アセチル-L-システイン、αリポ酸)が添加されている培養液を使用し、抗酸化剤が入っていない培養液とでスプリット培養し、培養成績を比較検討しました。

Day5 までの培養成績(受精率、Day3 良好胚率、胚盤胞到達率、良好胚盤胞率)に差はありませんでした。しかし、Day5～Day7 の良好胚盤胞率において、抗酸化剤が入っていない群では年齢による差が出たにもかかわらず、抗酸化剤添加培養液を用いた群では年齢による差は見られず、35 歳以上と 35 歳未満が同じ培養成績になりました。

このことから、年齢 35 歳以上の患者様に対しては抗酸化剤添加培養液を用いて培養することにより、一定の効果がある可能性が示唆されました。

胚培養士　貴志 瑞季